

拠点名称：ゼロカーボンバイオ産業創出による資源循環共創拠点

代表機関	京都大学	プロジェクトリーダー	沼田 圭司 京都大学 大学院工学研究科 教授
幹事自治体	京都府	幹事機関	株式会社島津製作所
参画機関	九州大学、京都工芸繊維大学、京都府立医科大学、京都産業大学、理化学研究所、同志社大学、三井住友建設株式会社、株式会社ブリヂストン、BASFジャパン株式会社、Spiber株式会社、ホロバイオ株式会社、Symbiobe株式会社、株式会社TSK、住友化学株式会社、リージョナルフィッシュ株式会社、有限会社フクオカ機業、尾崎林産工業株式会社、京都市、木津川市、舞鶴市		

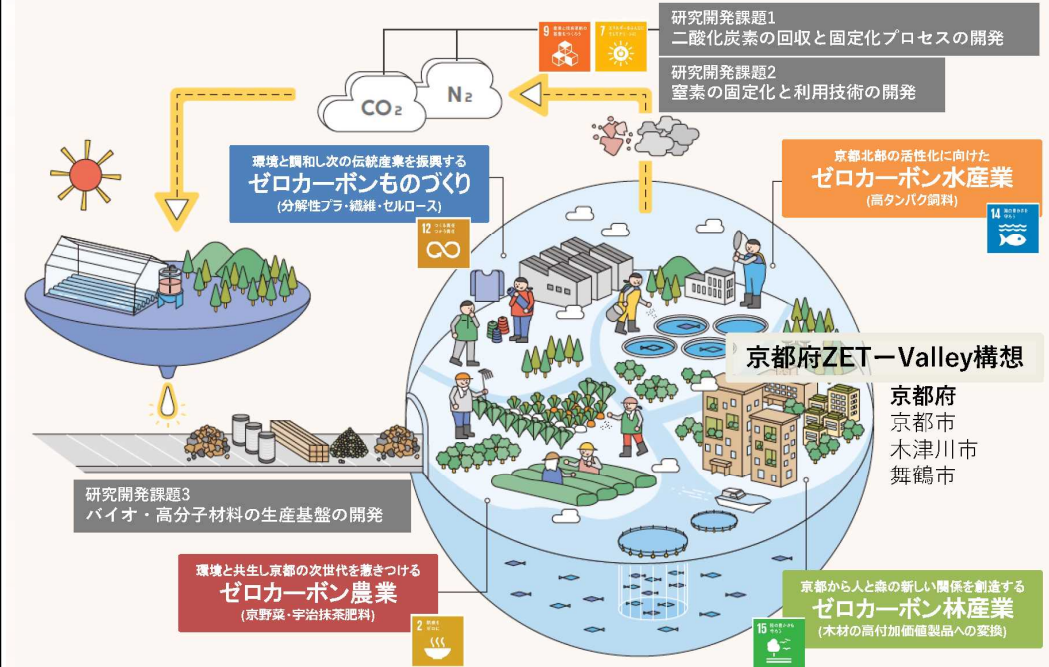
プロジェクトの概要

京都は古くからの伝統・文化を受け継ぐ地域であると同時に、豊かな自然環境を有する地域でもある。北部地域の漁業・養殖業、京都府全域に広がる京野菜・宇治抹茶に代表される農業、京都府の大半を占める山間部の林業、そして、高分子素材・繊維素材に代表されるモノづくり工業については、いずれの分野においても人口減少や高齢化、外国産品との競争激化などに直面しており、ベンチャーをはじめとする新産業の創出やSDGsへの適応が地域課題として強く認識されている。

京都大学拠点は**紅色光合成細菌や植物などの光合成生物**を用いて、**空気を資源化する革新的なゼロカーボン科学技術**により、一次産業や伝統産業にかかる課題を解決し、「**活力ある京都**」を共創する。

特に、光合成生物を利用した二酸化炭素や窒素の固定化技術に基づき、ゼロカーボンものづくり、ゼロカーボン農業、ゼロカーボン漁業、ゼロカーボン林産業の基盤技術を創出する。本拠点の取組みは、「京都府総合計画」(2022年12月改定)に含まれる「**ZET(Zero Emission Technology)-Valley構想**」の中核にも位置付けられており、空気を資源とする**ゼロカーボン・バイオエコノミー**を京都の地から産官学が一体となり共創する。

空気の資源化技術を核として、京都の伝統・文化や豊かな地域資源から新しい価値を創造し、**ゼロカーボン・バイオエコノミー社会**を実現



地方が最先端となりスタートアップ・新産業を創出